

神奈川県総合リハビリテーションセンター あり方検討会（第1回）資料



令和6年10月22日（火）

神奈川県総合リハビリテーションセンター
あり方検討会（第1回）

神奈川県健康医療局保健医療部県立病院課

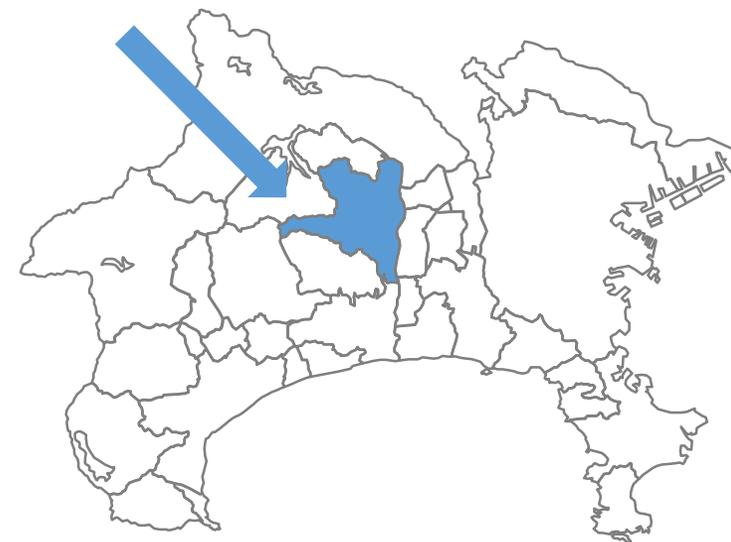
目次

- 1 神奈川県総合リハビリテーションセンターの概要
- 2 検討会について
- 3 神奈川県総合リハビリテーションセンターの現状
- 4 今後の進め方

1 神奈川県総合リハビリテーションセンターの概要

神奈川県総合リハビリテーションセンターの概要

所在地	神奈川県厚木市七沢516
設置	昭和48年
設置目的	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施
設置根拠	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例
設置主体	神奈川県
運営主体	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団
運営形態	指定管理（第1期：平成18年度～27年度、第2期：平成28年度～令和7年度） ※管理業務の内容等は県との基本協定で規定
施設	1 病院：神奈川リハビリテーション病院 3 福祉施設：七沢学園（児童・成人）、七沢療育園、七沢自立支援ホーム



- 昭和48年 社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団設立
七沢老人リハビリテーション病院、七沢第一学園、七沢第二学園、七沢療育園、七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、七沢ライトホーム、七沢障害・交通リハビリテーション病院の業務開始
- 平成8年 七沢第一学園と七沢第二学園を統合し、七沢学園に名称変更
- 平成14年 地域リハビリテーション支援センターを設置
- 平成18年 指定管理制度導入
- 平成22年 七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホームおよび七沢ライトホームを統合し、七沢更生ライトホームに名称変更
- 平成28年 リハビリテーションセンター再整備による新福祉棟の完成
- 平成29年 神奈川リハビリテーション病院と七沢リハビリテーション病院脳血管センター統合
リハビリテーションセンター再整備による新病院棟の完成

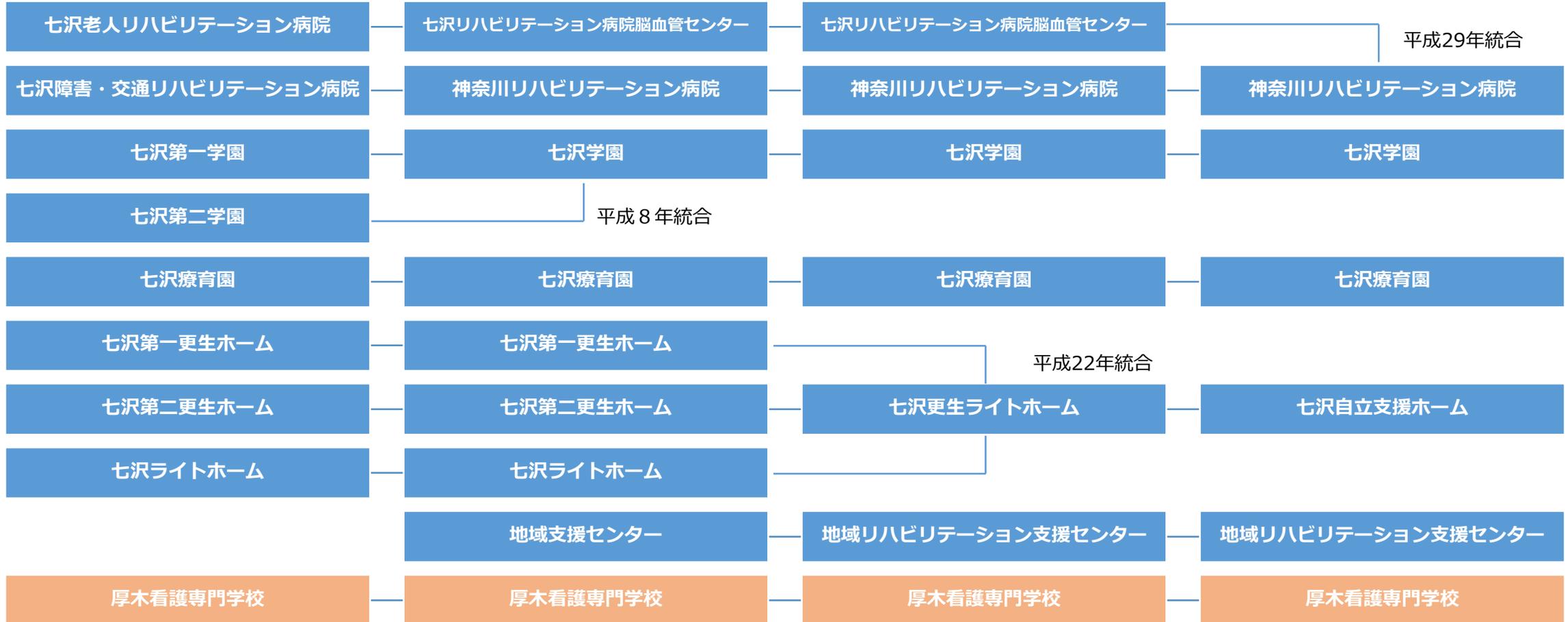
施設の変遷

昭和48年（事業団設立時）

平成18年（指定管理第1期）

平成28年（指定管理第2期）

令和6年（現在）



施設詳細

	施設名	対象者	機能	病床・定員
病院	神奈川リハビリテーション病院	脊髄障害、脳外傷、骨・関節疾患、神経疾患、小児神経疾患、脳卒中等	患者の早期社会復帰に向け、医師・看護師及びセラピストなどの多職種チームによるリハビリテーション医療を提供	一般 284床 重度心身障害児・者 40床（七沢療育園）
社会福祉施設	七沢学園 (福祉型障害児入所施設)	知的障害や発達障害のある児童	疾病や不適応行為についての治療や行動改善のための教育と評価等、家庭復帰に向けた支援	30人 短期入所 2人
	七沢学園 (障害者支援施設)	18歳以上の知的障害者	社会復帰に向けた、施設入所支援、生活介護及び生活訓練	30人 生活介護19人 生活訓練17人 短期入所 3人
		医療重度者、強度行動障害者、職業的技能や社会生活の向上を必要とする方	障害特性に合わせた個別支援	
	七沢療育園 (療養介護) (医療型障害児入所施設)	重度重複障害児・者の方	利用者個々の個性、ライフステージや障害特性に合わせた生活支援、医療的ケア及び日中活動などを提供し、安全・安心な生活を送れるよう、医療と福祉の総合的な支援	40人 短期入所（空床型）
七沢自立支援ホーム (障害者支援施設)	<肢体不自由部門> 脊髄障害や脳血管障害、高次脳機能障害のある脳損傷等の肢体不自由者	医学的、職業的、社会的リハビリテーションサービスを総合的に提供し、地域生活移行に向けた個別支援	40人 機能訓練42人 短期入所 2人	
	<視覚障害部門> 視覚に障害のある方	医療的管理の下、生活面の支援や視覚リハビリテーションサービスを総合的に提供し、地域生活移行に向けた個別支援	10人 機能訓練18人	

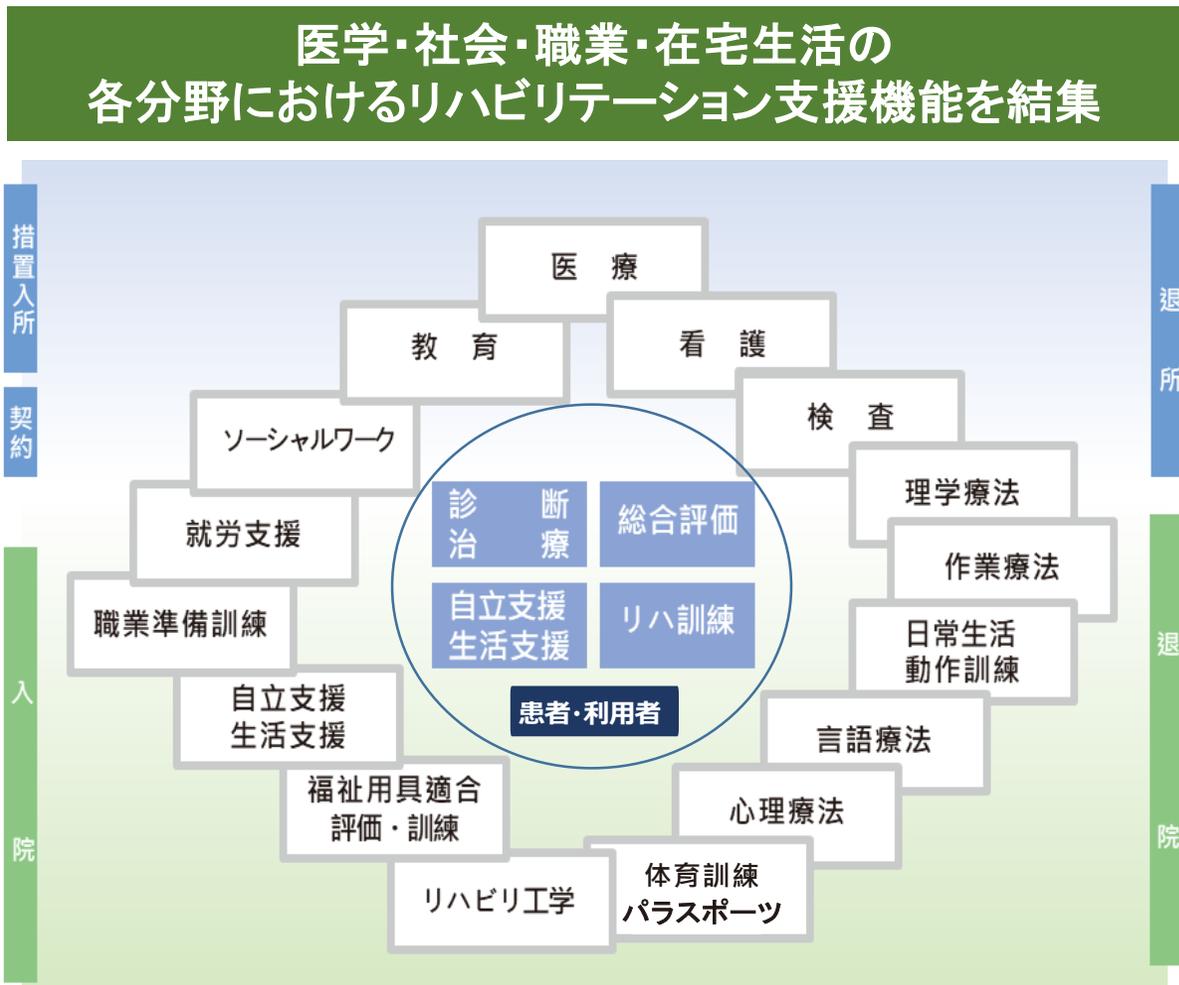
役割・コンセプト

(障害者入所施設)
七沢学園
七沢療育園
七沢自立支援
ホーム

緊密
連携

一体
運営

神奈川リハビリ
テーション病院

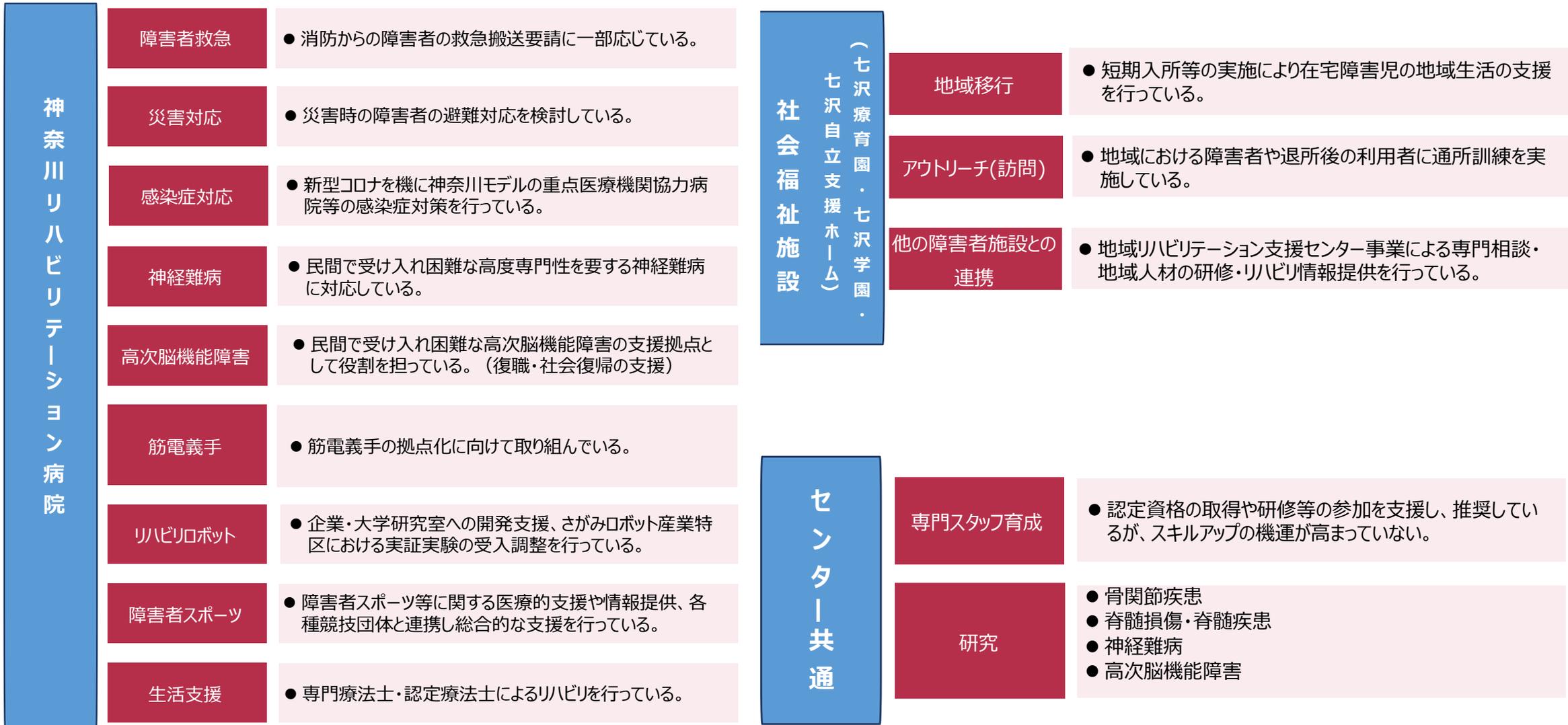


地域生活への移行



障害の程度に関わらず自分らしく生きられるよう、社会復帰を目指すための支援を展開

現在の機能



(参考) 施設配置図

	施設名	建築年	用途
①	病院棟本館	平成29年	・病院病棟、訓練部門、 外来部門
②	病院棟東館	平成10年	・病院病棟、手術室 ・七沢療育園
③	福祉棟	平成28年	・七沢学園（児童・成人） ・七沢自立支援ホーム
④	管理棟	昭和48年	・事業団事務局
⑤	体育館 室内プール	昭和48年	・訓練
⑥	社会生活自立 実習棟	昭和62年	・訓練
⑦	七沢アパート	昭和48年	・職員用宿舎
⑧	こども園	昭和48年	・保育所、育児所



2 検討会について

検討会の設置について

【背景】

- 昭和48年設立以降、医療と福祉の連携による、総合的かつ一貫したリハビリテーションの実施というコンセプトで実施。
- 一方、リハビリテーション医療や身体障害者医療、患者利用者の地域移行など取り巻く背景が変化してきている。
- また、県立障害者支援施設の見直しや病院機構の改革もあり、当事者目線に立った、より時代に即した医療・福祉のあり方について検討する必要がある。

⇒次期指定期間に入った場合、期間中の10年間は大幅な見直しが困難であるため、この機会に抜本的な検討が必要

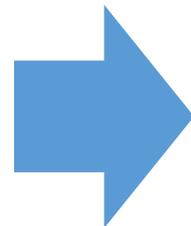
【目的】

- リハビリテーション医療や障害福祉を取り巻く環境変化を踏まえ、**県立の施設として果たすべき役割・目指すべき姿を再整理**

検討の内容

検討の視点

- ・ 医療と福祉の連携
- ・ 経営方針
- ・ 人材育成
- ・ 政策的医療
- ・ 障害児者医療
- ・ 医師確保方策
- ・ 障害者意思決定支援
- ・ 看護倫理
- ・ 介護ケア
- ・ 栄養管理
- ・ 現場目線
- ・ 利用者・当事者目線
- ・ 他施設への支援
- ・ 地域医療との連携・役割分担
- ・ パラスポーツ



今後のリハセンターに求められる

- ◇ 運営機能
- ◇ 組織体制
- ◇ 経営構造

のあり方について検討

構成委員

分野	氏名	所属
福祉施設関係者	大川 貴志	社会福祉法人同愛会 支援向上室
福祉分野学識経験者	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク 副理事長
一般公募	金子 寿	公募委員
リハビリテーション医療関係者	久保 俊一	一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事長
地域医療関係者	鈴木 紳一郎	公益社団法人神奈川県医師会 副会長
リハビリテーション現場関係者	玉垣 努	神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 教授
地域支援関係者	長野 広敬	公益社団法人神奈川県看護協会 会長
地域支援関係者	中村 丁次	公益社団法人日本栄養士会 代表理事会長
医療分野学識経験者	野崎 秀次	社会福祉法人同愛会 精神科医療顧問
医療分野学識経験者	松原 由美	早稲田大学人間科学学術院 教授
地域医療関係者	吉田 勝明	公益社団法人神奈川県病院協会 会長
医療分野学識経験者	山本 哲哉	横浜市立大学脳神経外科教室 主任教授
障害当事者	渡部 京子	社会福祉法人夢21福祉会

3 神奈川県総合リハビリテーションセンターの現状

(1) 運営主体

(1) 運営主体（神奈川県総合リハビリテーション事業団）の概要

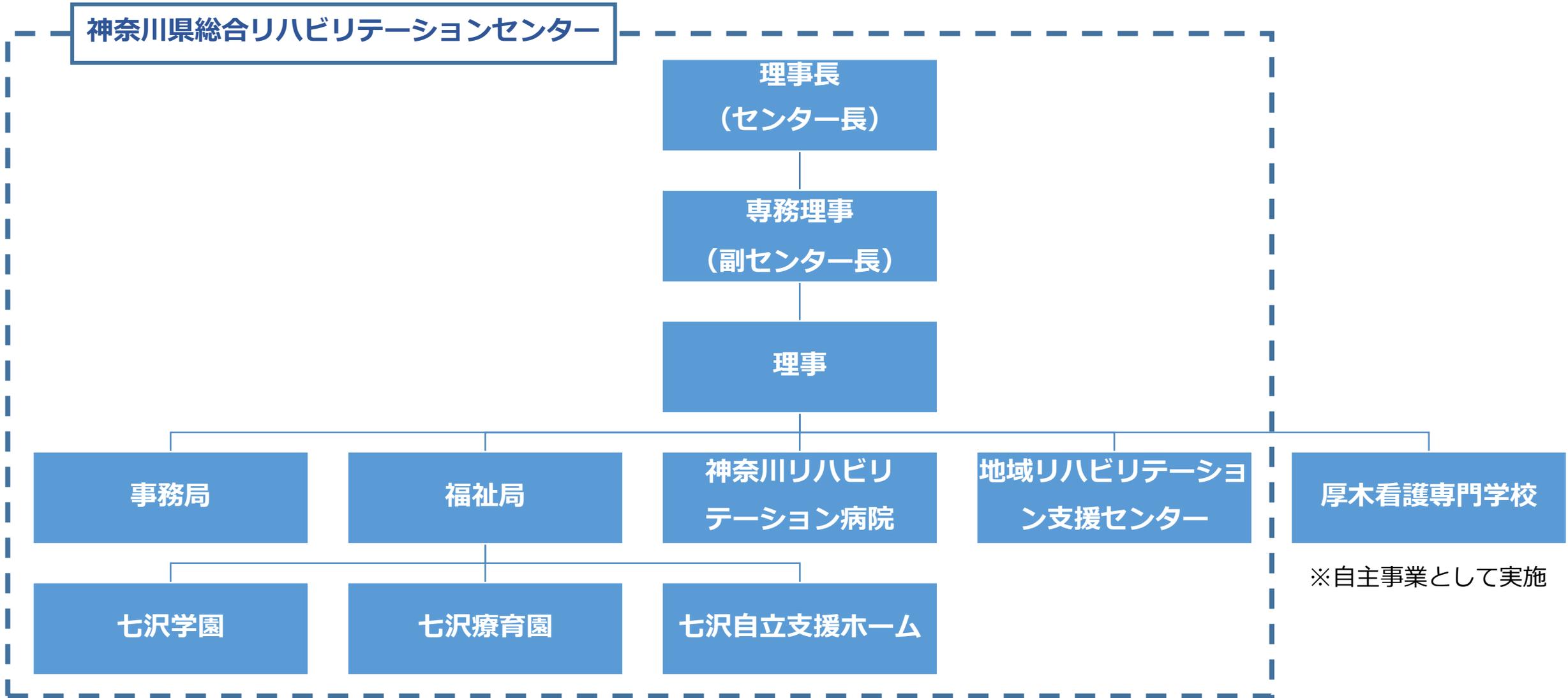
【概要】

- 「神奈川県総合リハビリテーション事業団」は、県立施設である「神奈川県総合リハビリテーションセンター」を効果的、効率的に運営することを目的に、昭和48年に神奈川県が設立した県主導の第三セクター

(参考) 運営形態の変遷（いずれも神奈川県総合リハビリテーション事業団が実施）

- (1) 管理委託（昭和48年度～平成17年度）
 - ・福祉施設と病院とが相互に有機的かつ緊密な連携を図り、センターを一体的に運営
- (2) 指定管理（第1期：平成18年度～平成27年度）公募（プロポーザル）
 - ・神奈川県総合リハビリテーションセンター条例により、センターの位置づけを制定
- (3) 指定管理（第2期：平成28年度～令和7年度）非公募
 - ・引き続き県主導の第三セクターとして更なる経営改善に取り組む法人の位置づけに見直し

神奈川県総合リハビリテーション事業団の組織図



神奈川県総合リハビリテーションセンターの人員配置

令和6年3月31日時点

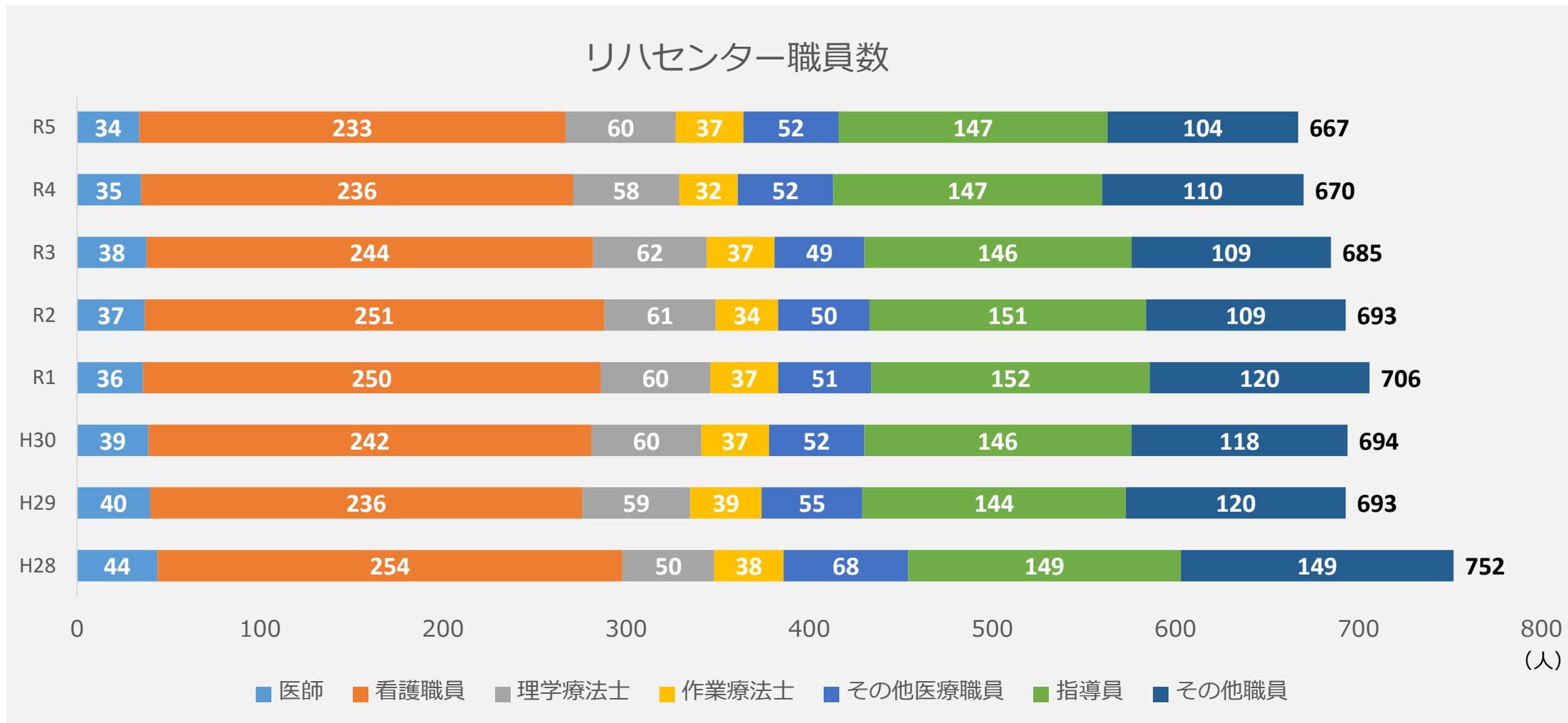
	医師	看護職員	理学療法士	作業療法士	その他医療職員	指導員	その他職員	計
役員	2	0	0	0	0	0	2	4
事務局	0	0	0	0	2	0	11	13
七沢学園	0	2	0	0	0	65	2	69
七沢療育園	1	23	1	0	0	21	2	48
七沢自立支援ホーム	1	5	2	2	1	35	1	47
神奈川リハ病院	30	204	55	31	49	26	62	457
地域リハ支援センター	0	0	1	1	0	1	1	4
合計	34	234	59	34	52	148	81	642

注1 「その他医療職員」とは、薬剤師、臨床検査技師、聴能検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士及び視能訓練士をいう。

注2 「指導員」とは、児童指導員、生活支援員、視覚障害者支援員、職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー及び心理判定員をいう。

注3 「その他職員」とは、理事、事務職員、工学技術員、診療情報管理士、専任教員、研究員、看護補助員、機能訓練作業員、クレーン及び保育士をいう。

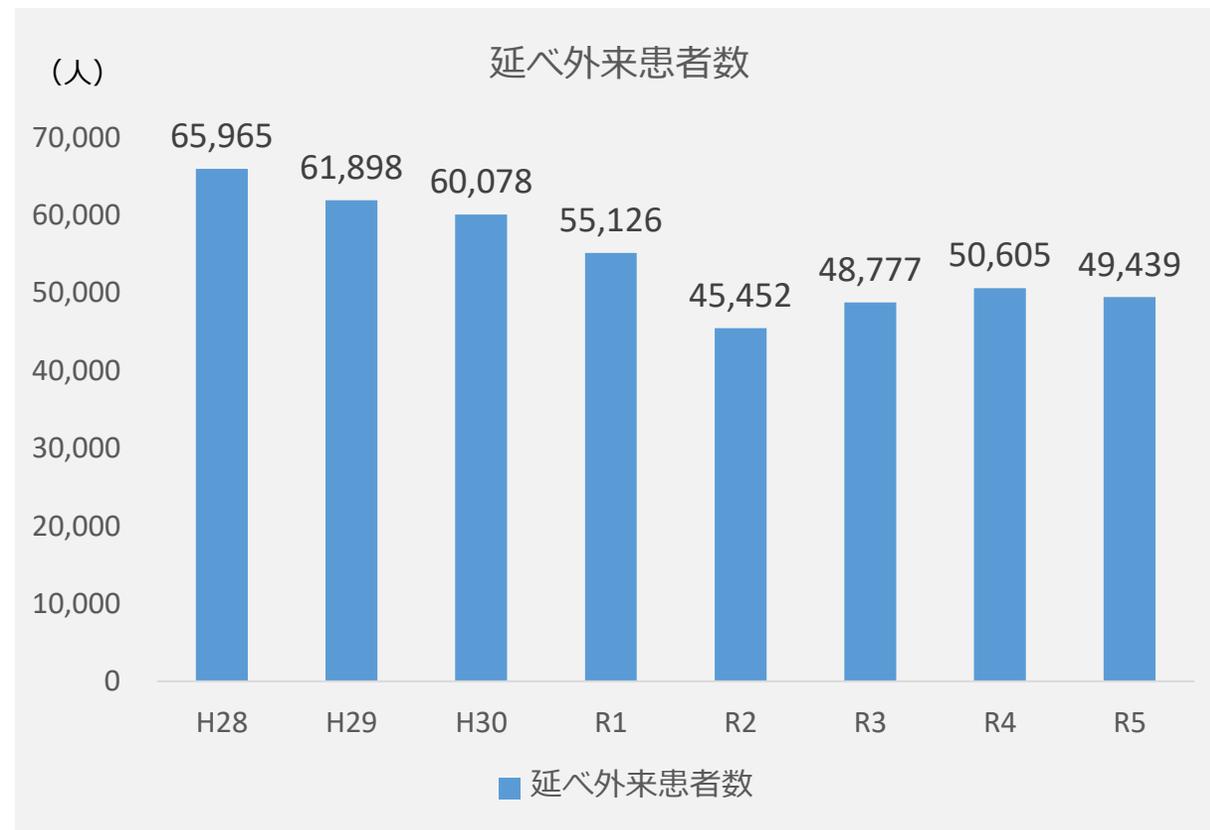
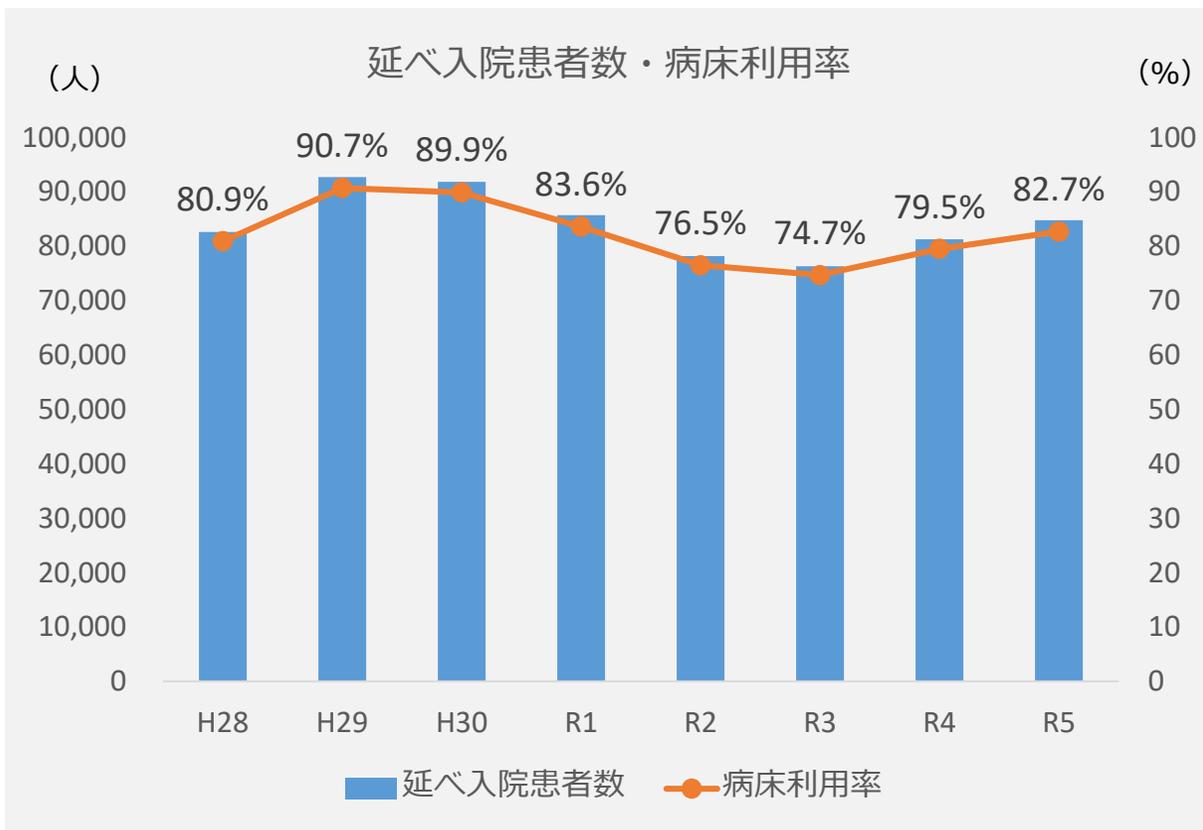
神奈川県総合リハビリテーションセンターの職員の状況



(2) 利用状況

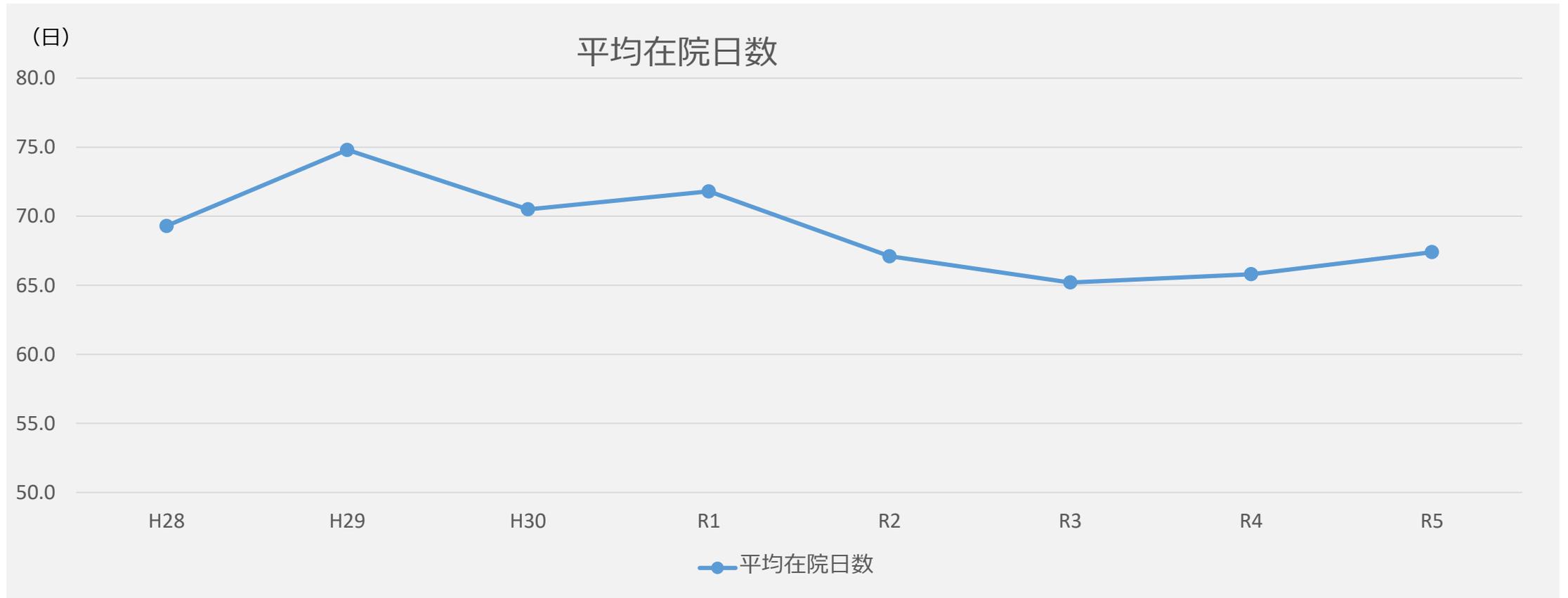
① 神奈川リハビリテーション病院

患者数・病床利用率の推移



○ 入院・外来ともにコロナ前の患者数・病床利用率に戻っていない。

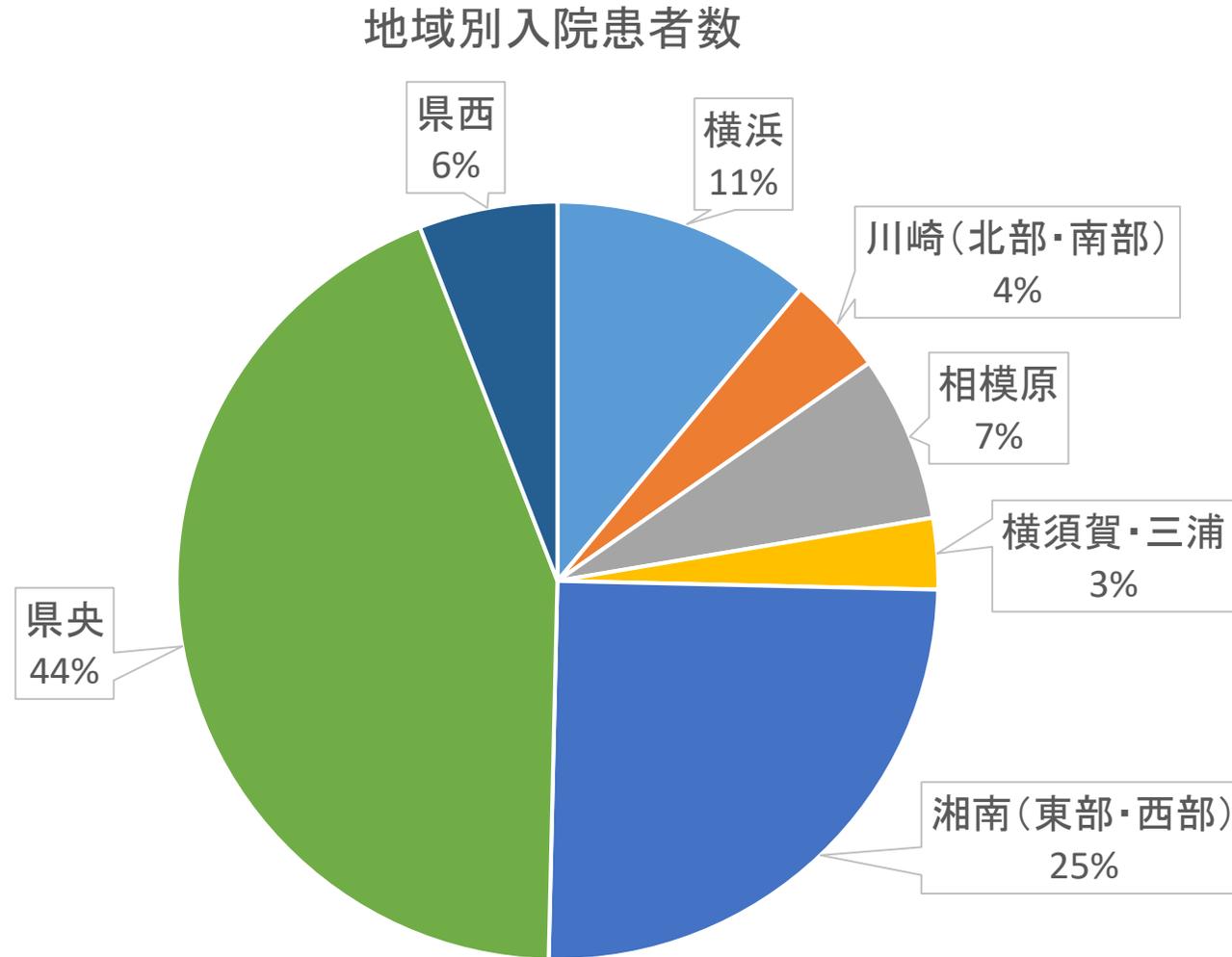
平均在院日数



○ 平均在院日数は短くなっている傾向にある。

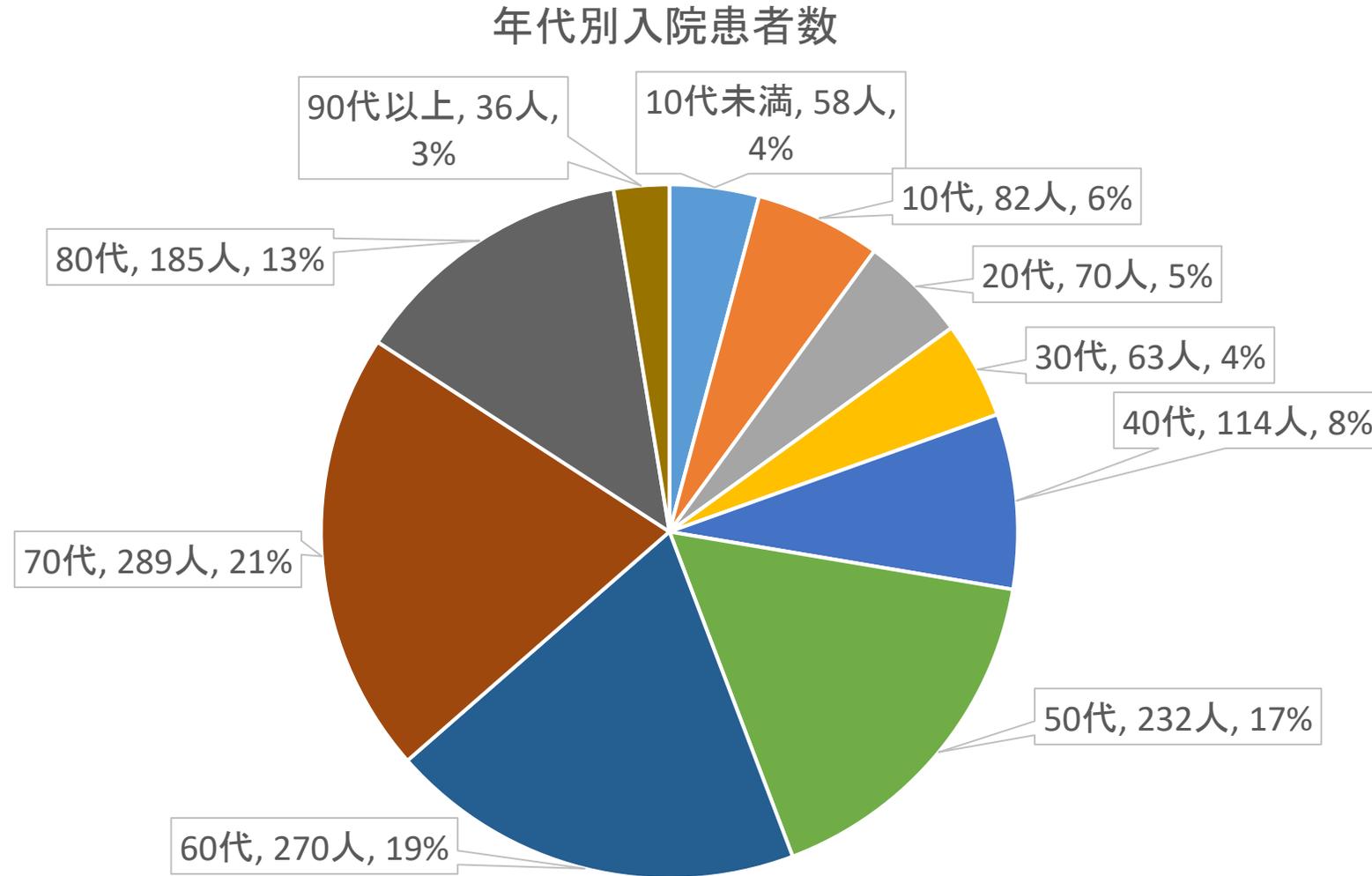
地域別入院患者数

令和5年度実績



年代別入院患者数

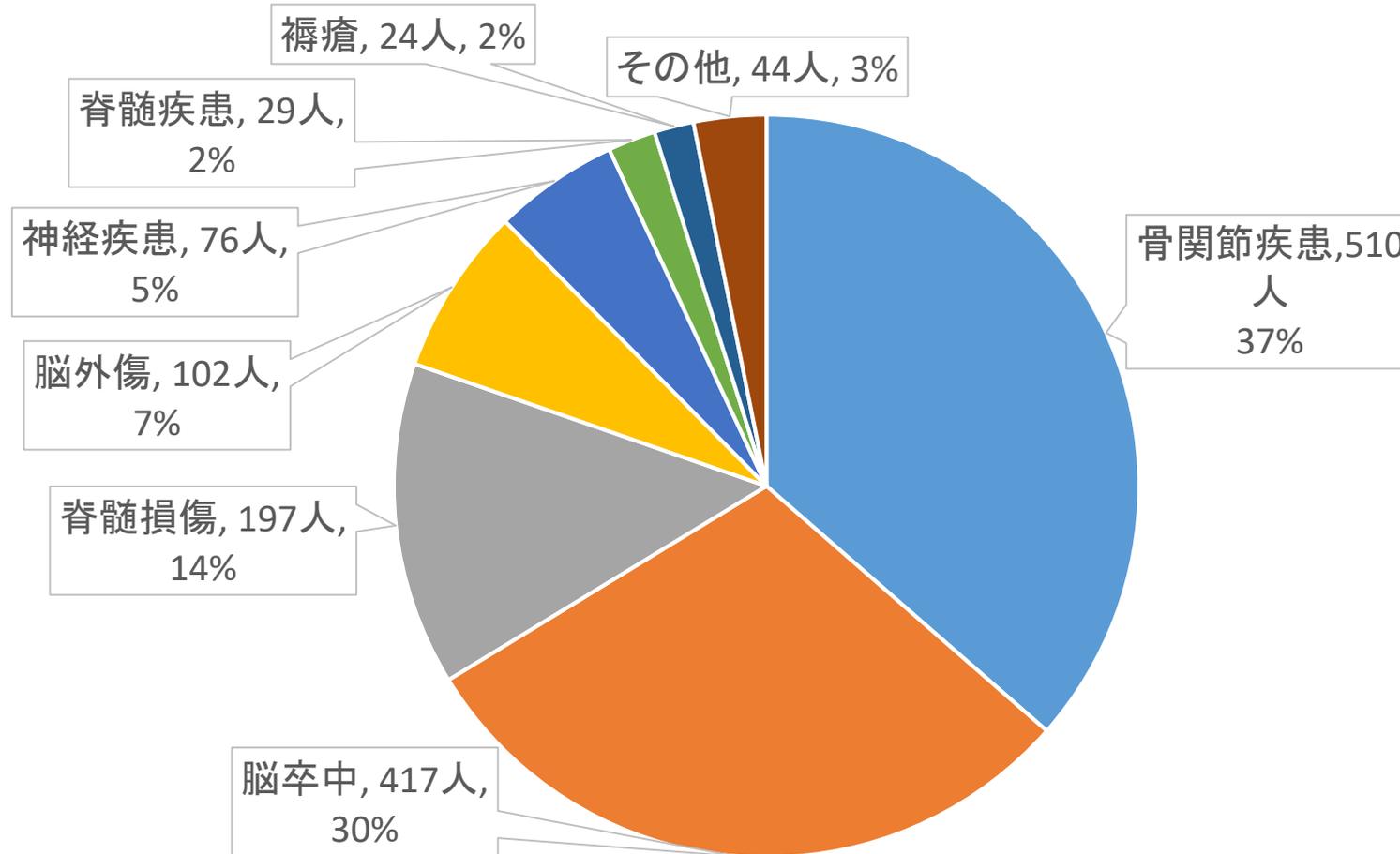
令和5年度実績



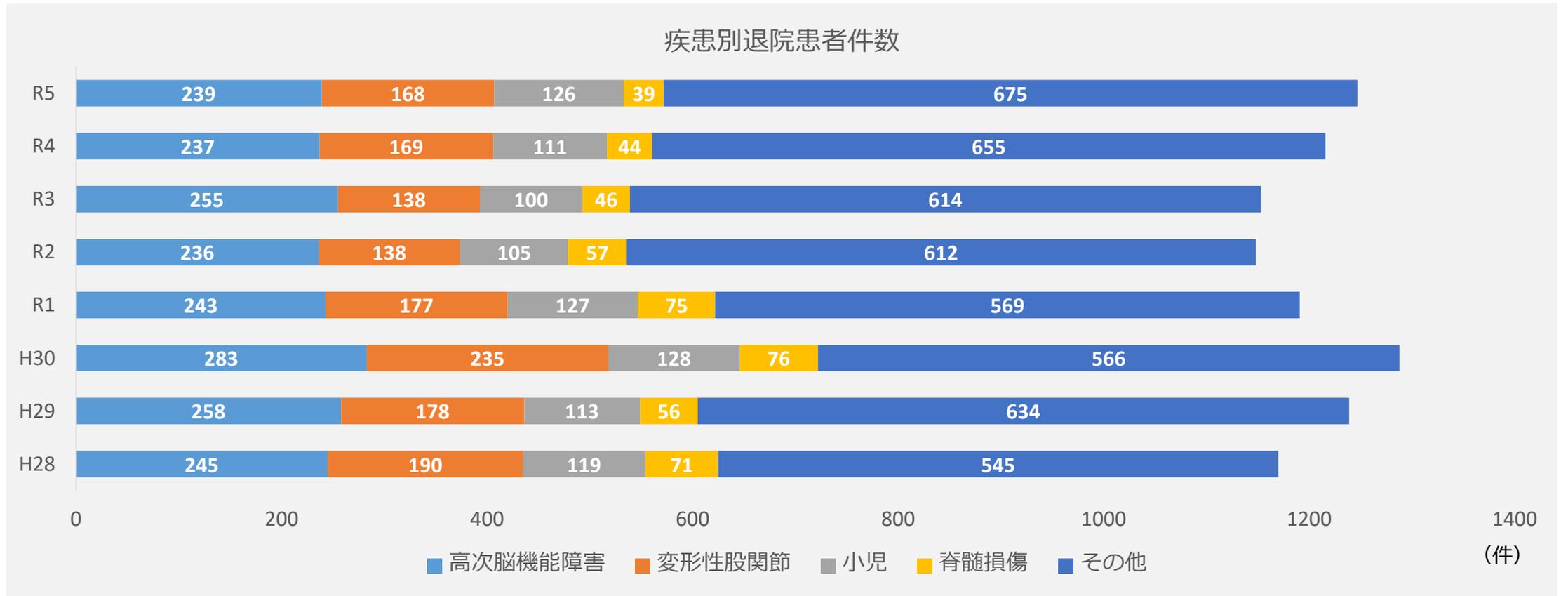
疾患別在院患者数

令和5年度実績

疾患別入院患者数

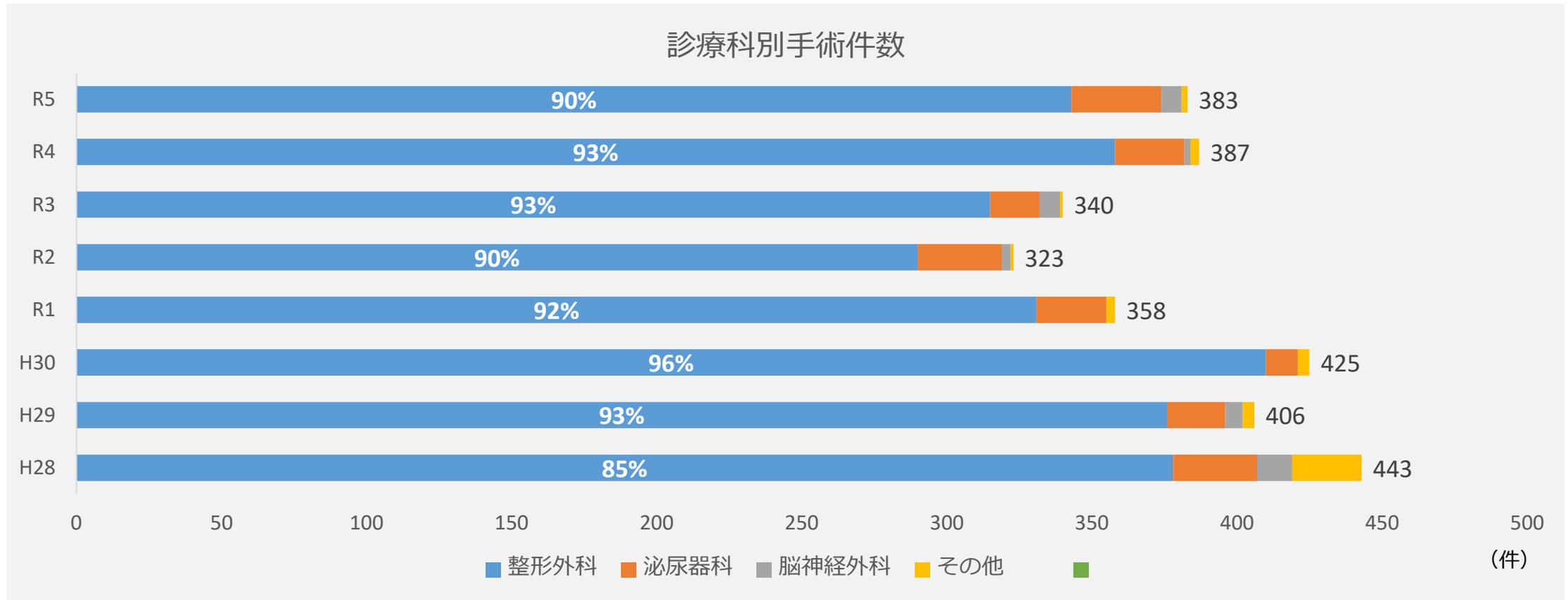


疾患別退院患者数



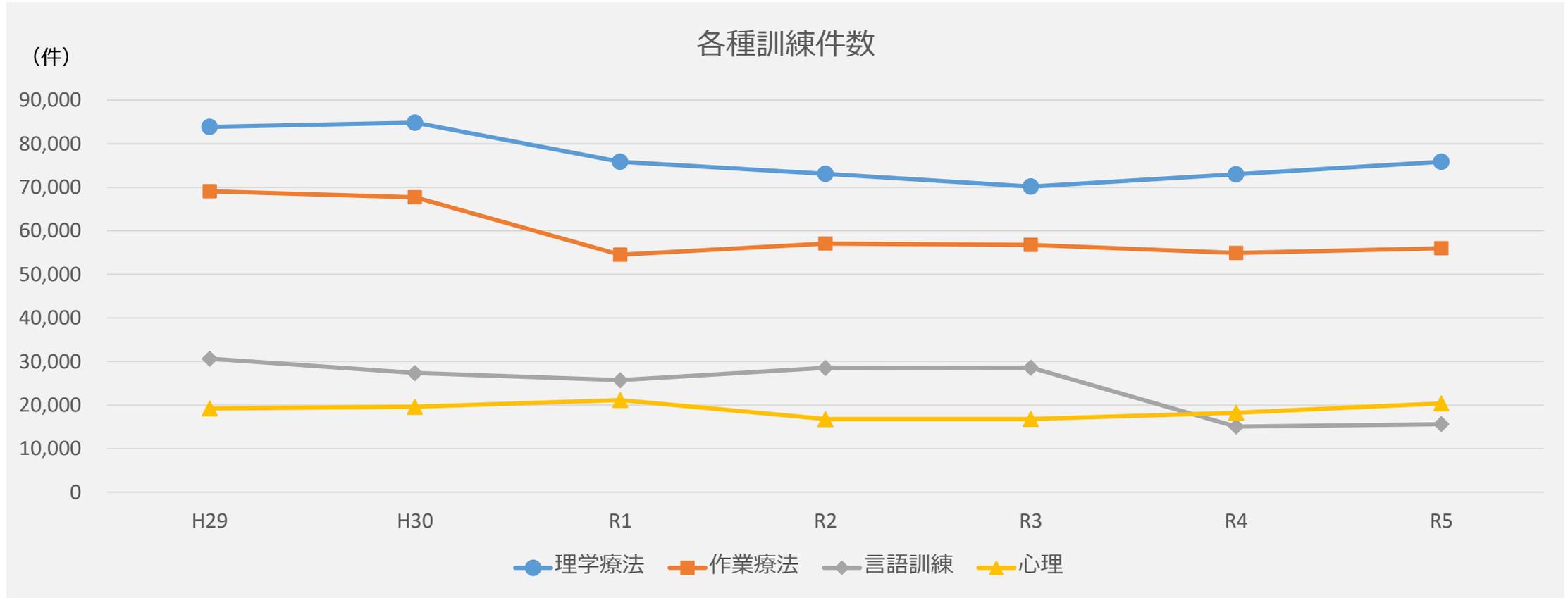
○ 疾患別に見ると、「その他」を除き、高次脳機能障害、変形性股関節、小児の順となっている。

診療科別手術件数



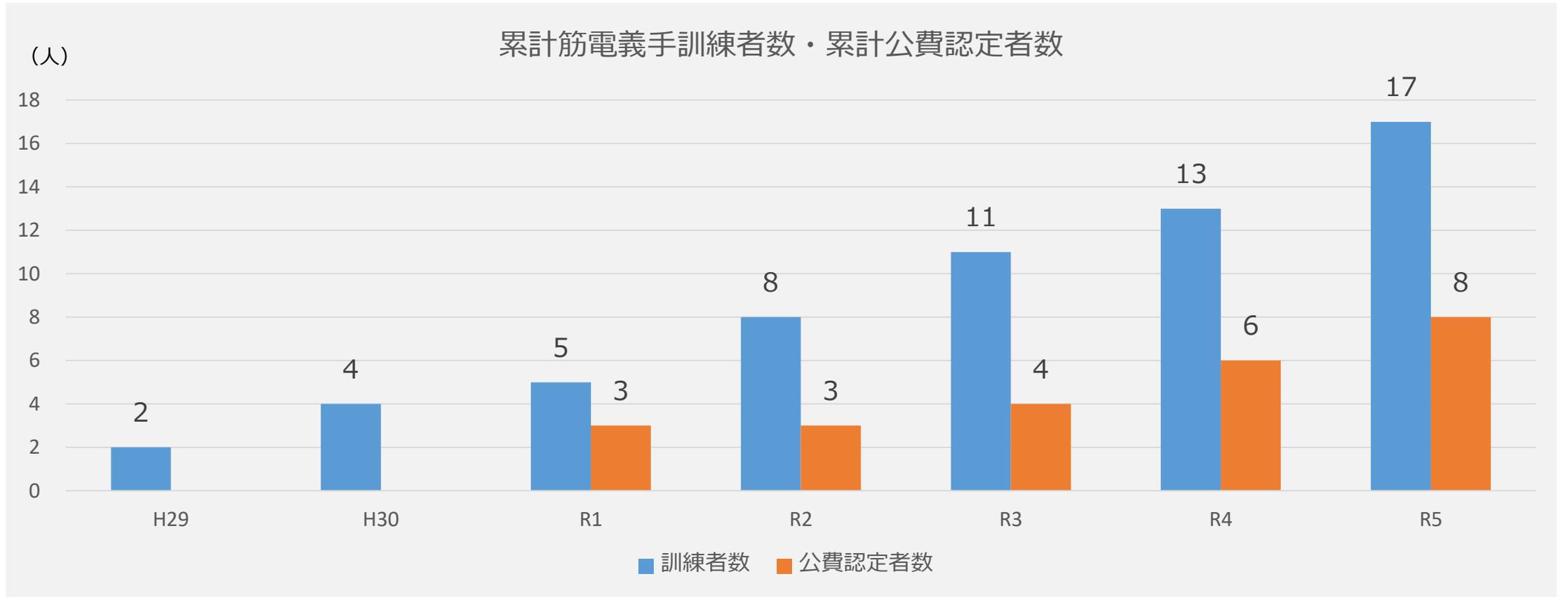
- 手術件数はコロナ前の水準に戻っていない。
- 整形外科の手術件数が突出している。

各種訓練件数

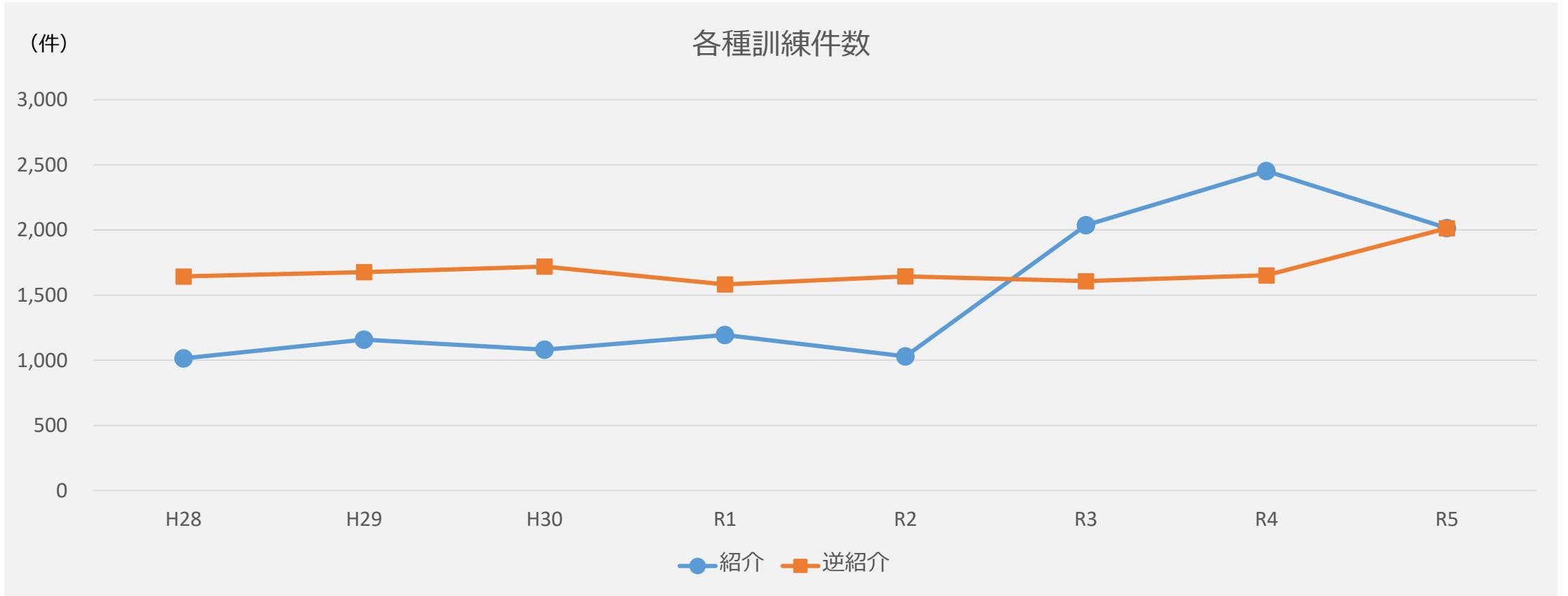


○ 訓練件数は減少または横ばいの傾向にある。

筋電義手訓練者数・公費認定者数



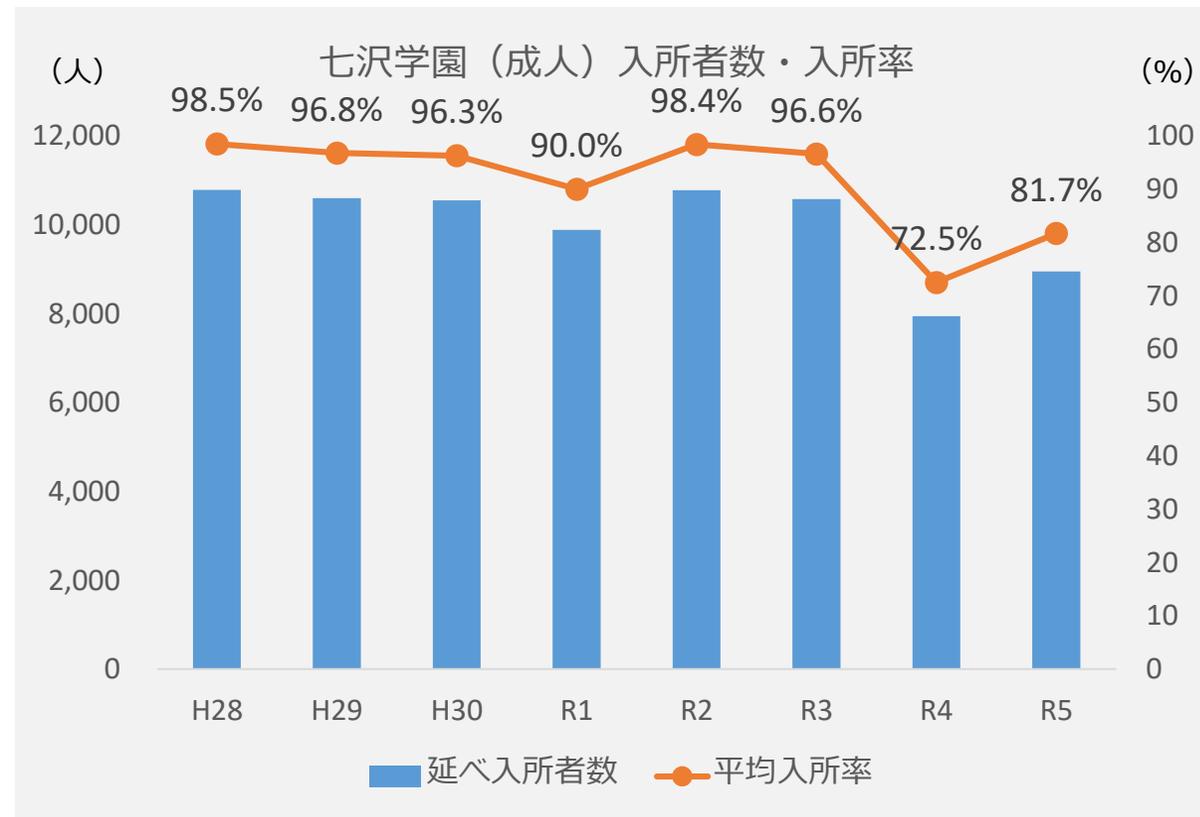
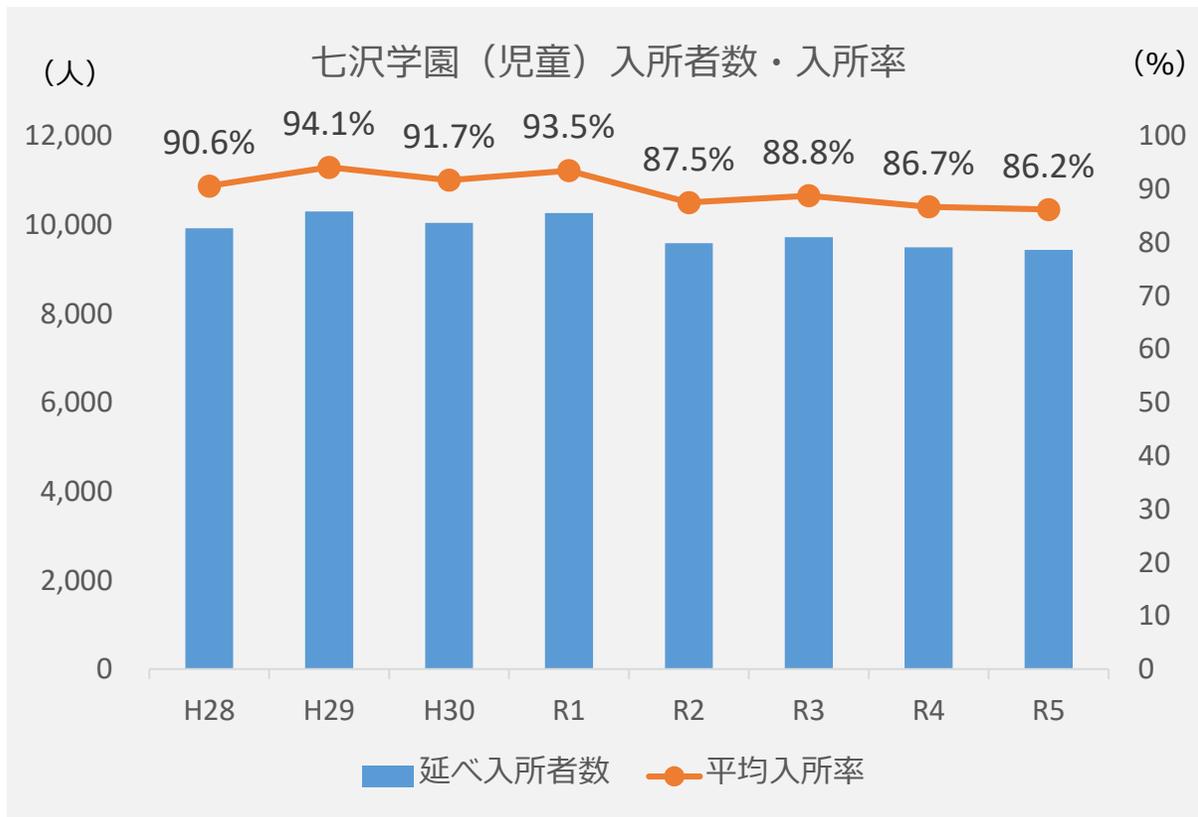
紹介・逆紹介件数



○ 紹介・逆紹介ともに増加傾向にある。

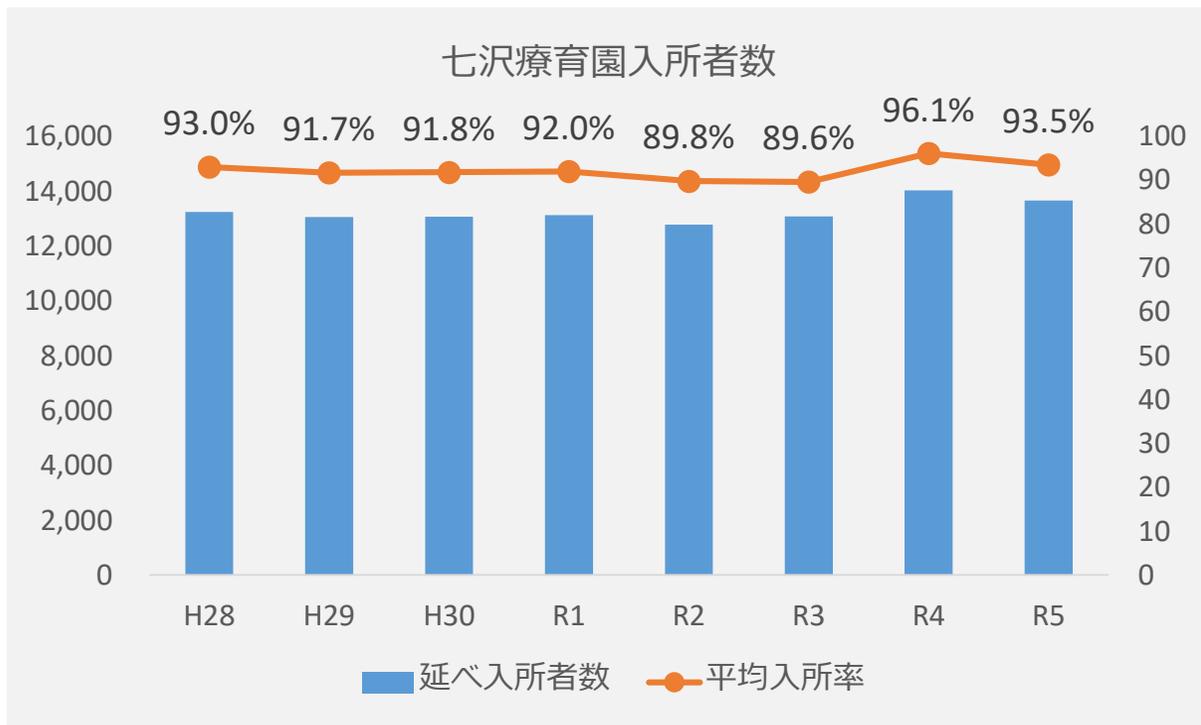
② 福祉施設

七沢学園 入所者数・入所率



○ 児童・成人ともにコロナ前の入所者数・入所率に戻っていない。

七沢療育園 入所者数・入所率

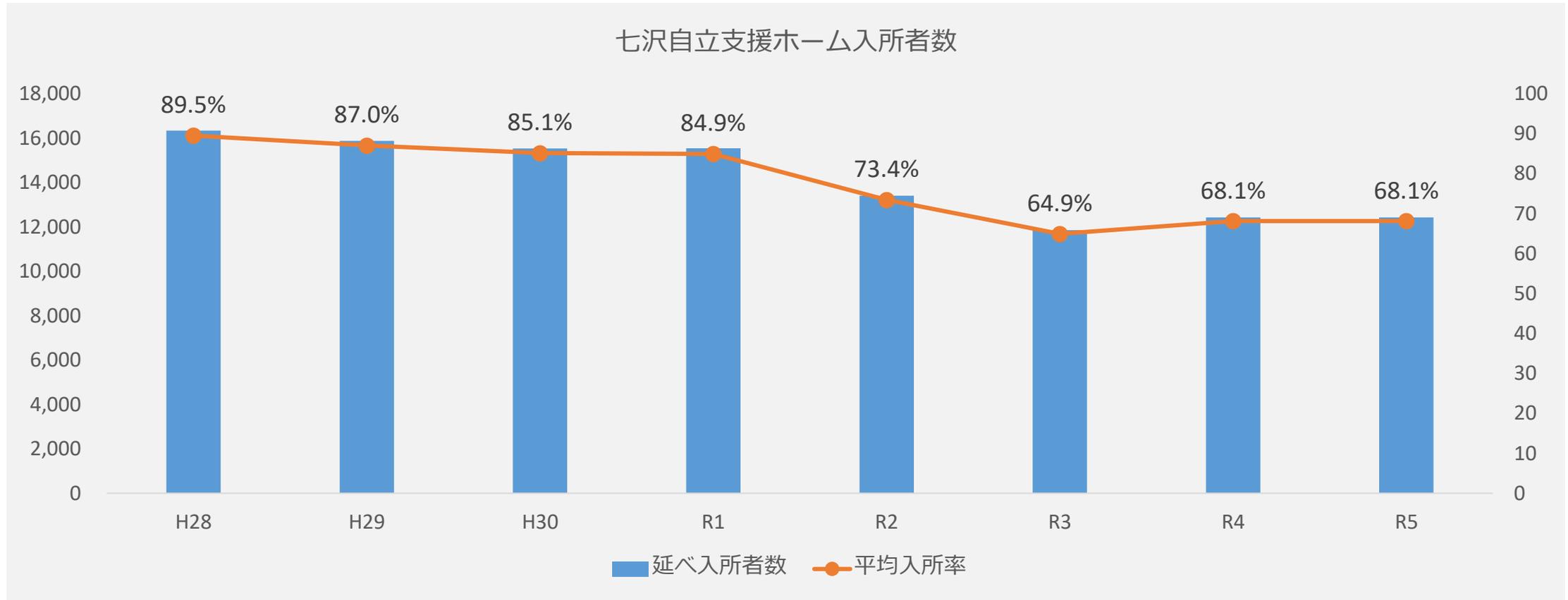


令和6年8月時点

項目	年数
平均在所年数	19.3年
最長在所年数	51.0年
最短在所年数	0.3年

- 七沢療育園の入所率は高い水準を維持している。
- これは入所が長期にわたっていることが要因と考えられる。

七沢自立支援ホーム 入所者数・入所率

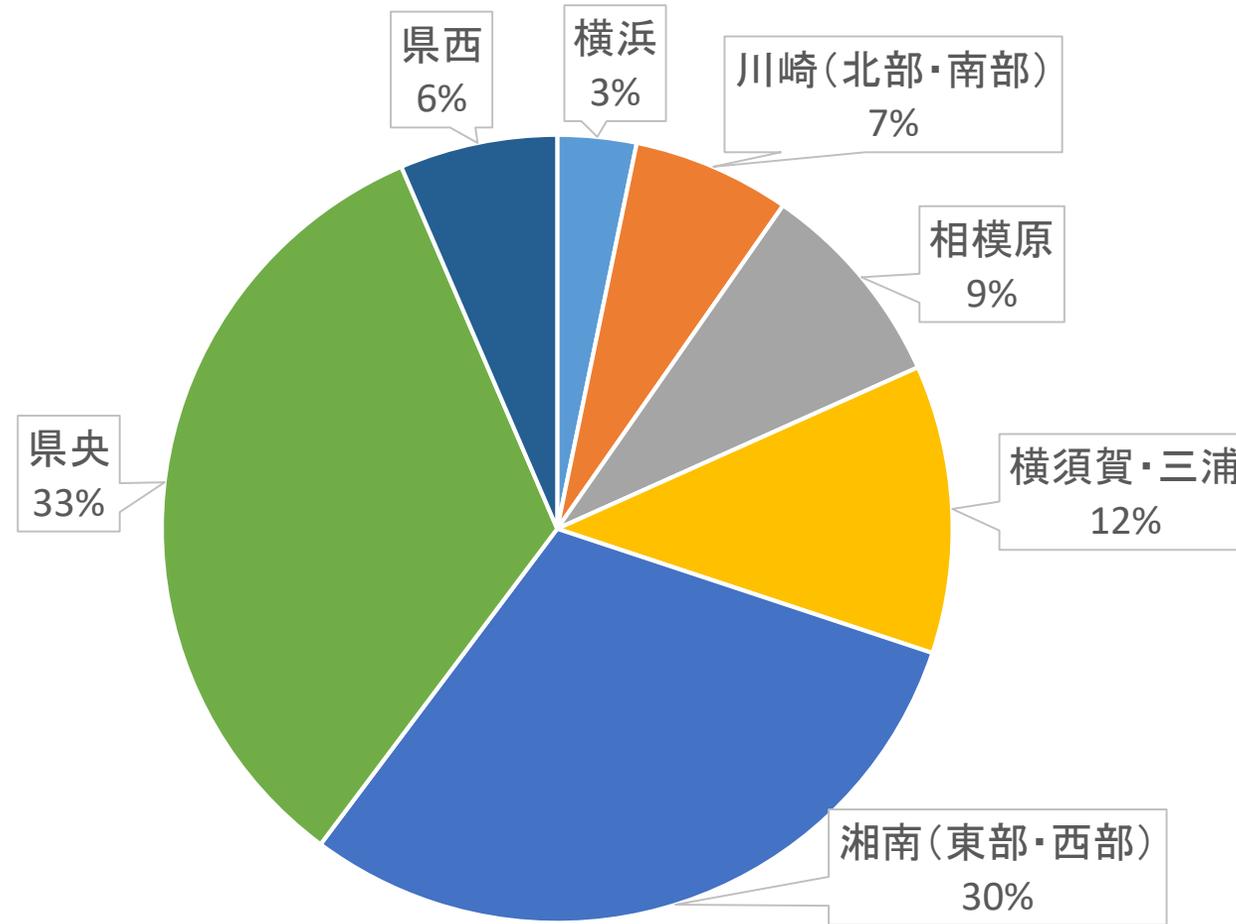


○ 入所者および平均入所率は減少傾向にある。

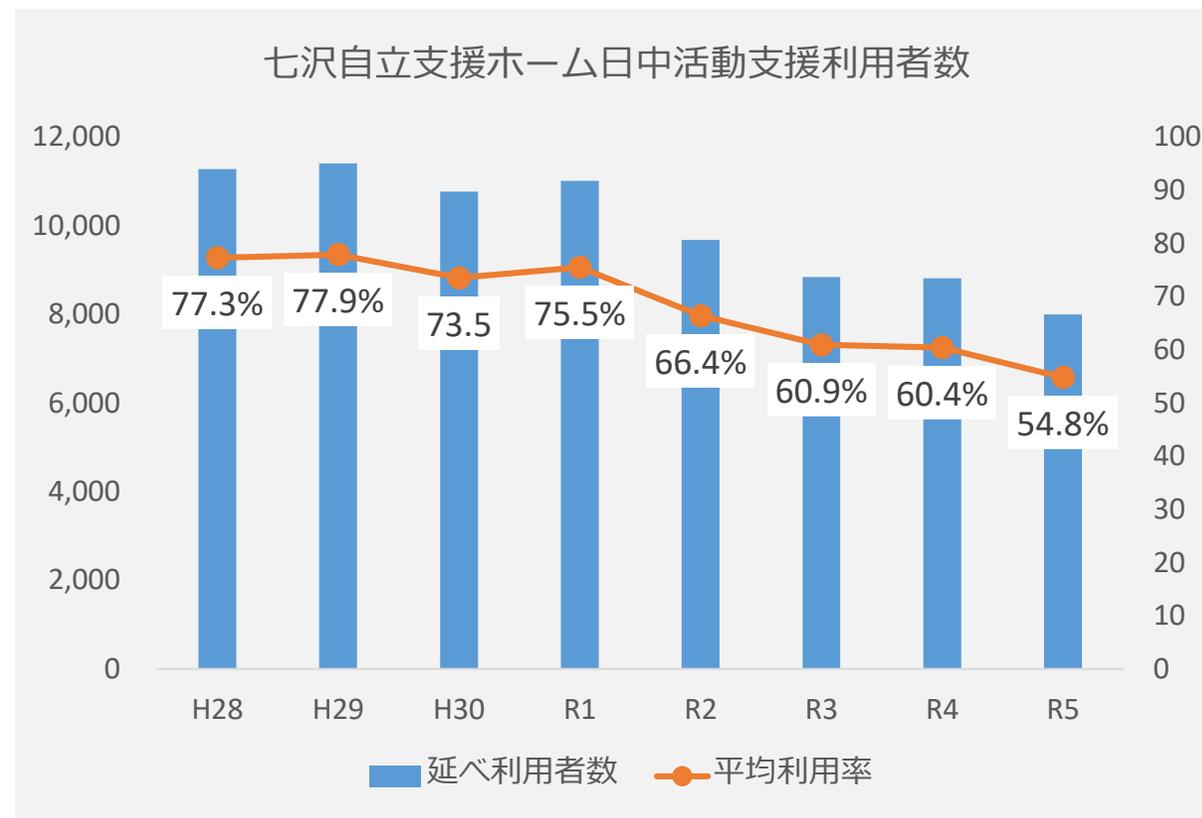
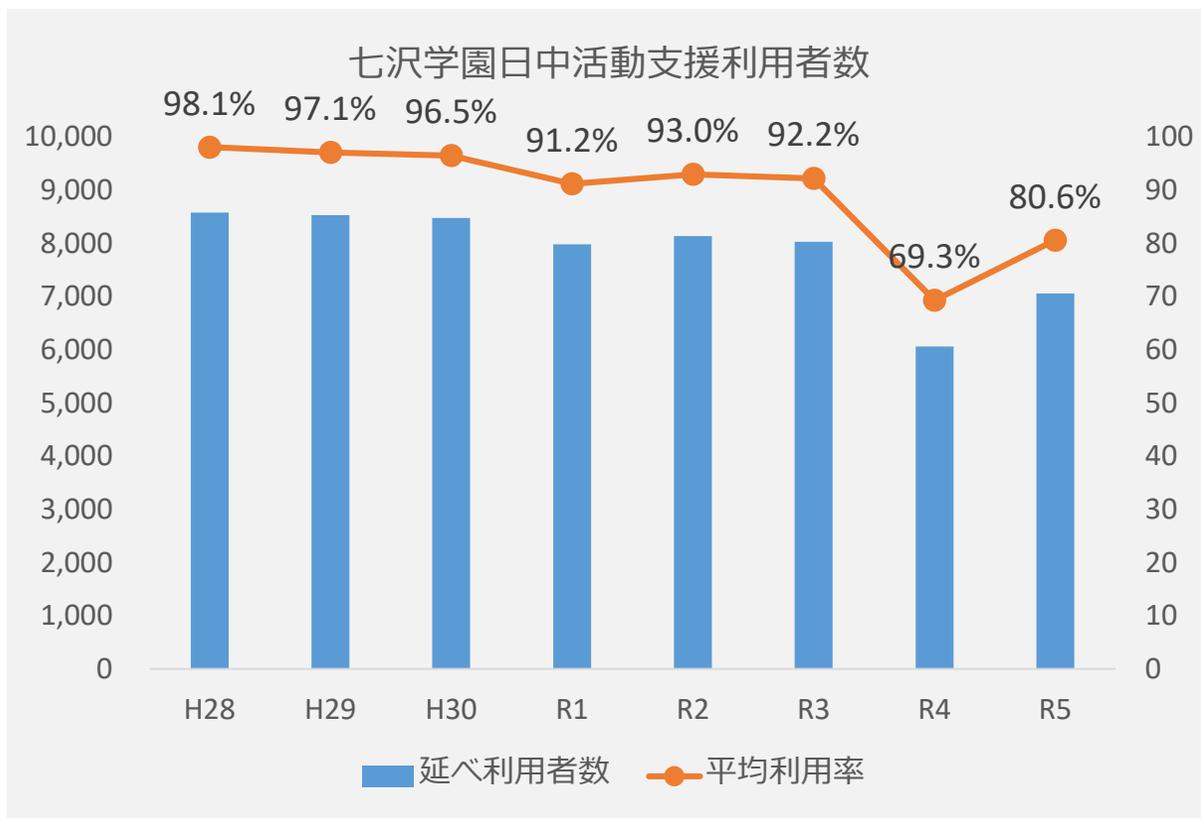
地域別在所者数

令和5年度実績

地域別在所者数(七沢学園(成人)・七沢療育園・七沢自立支援ホーム)



日中活動支援利用者数



○ 日中活動支援利用者数は年々減少傾向にある。

障害別利用者数

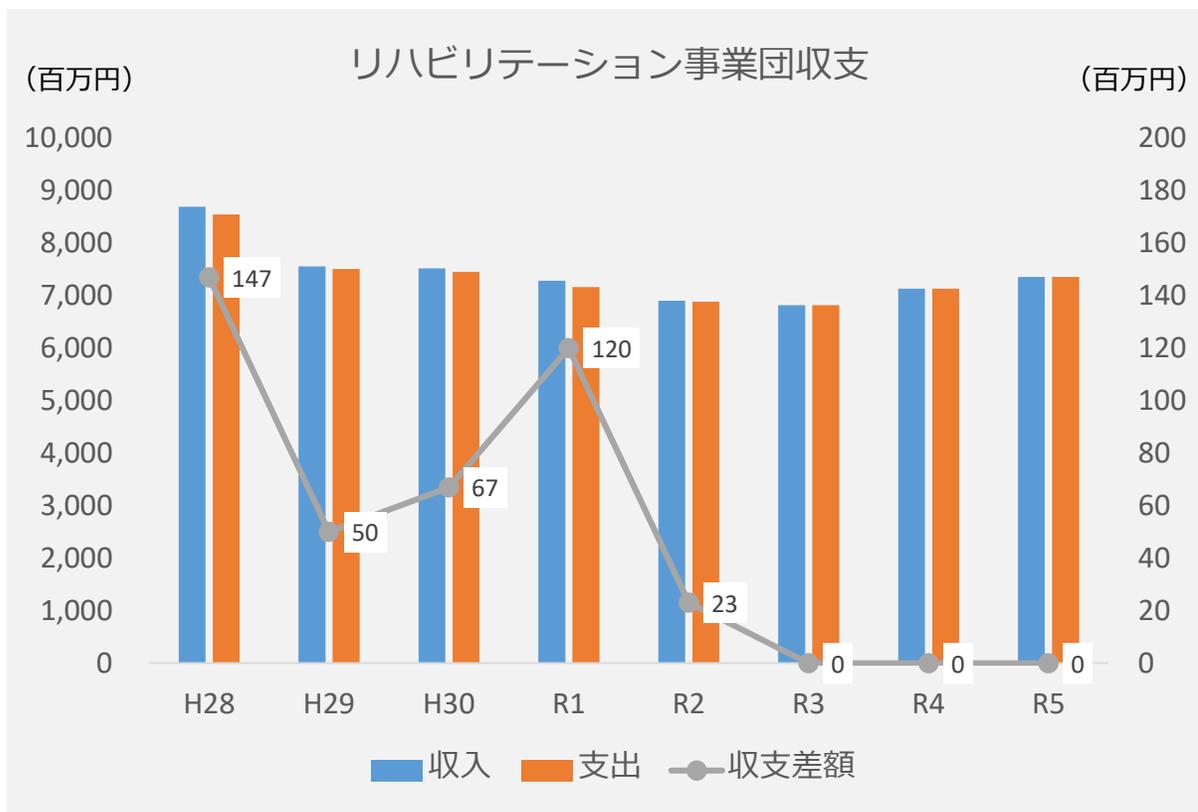
令和5年度実績

施設	区分	実人数	延人数	一日平均人数
七沢学園	強度行動障害児	1	366	1.0
	強度行動障害者	6	2,196	6.0
	医療重度者	5	1,830	5.0
七沢療育園	超・準超重症児者	43	4,140	11.3

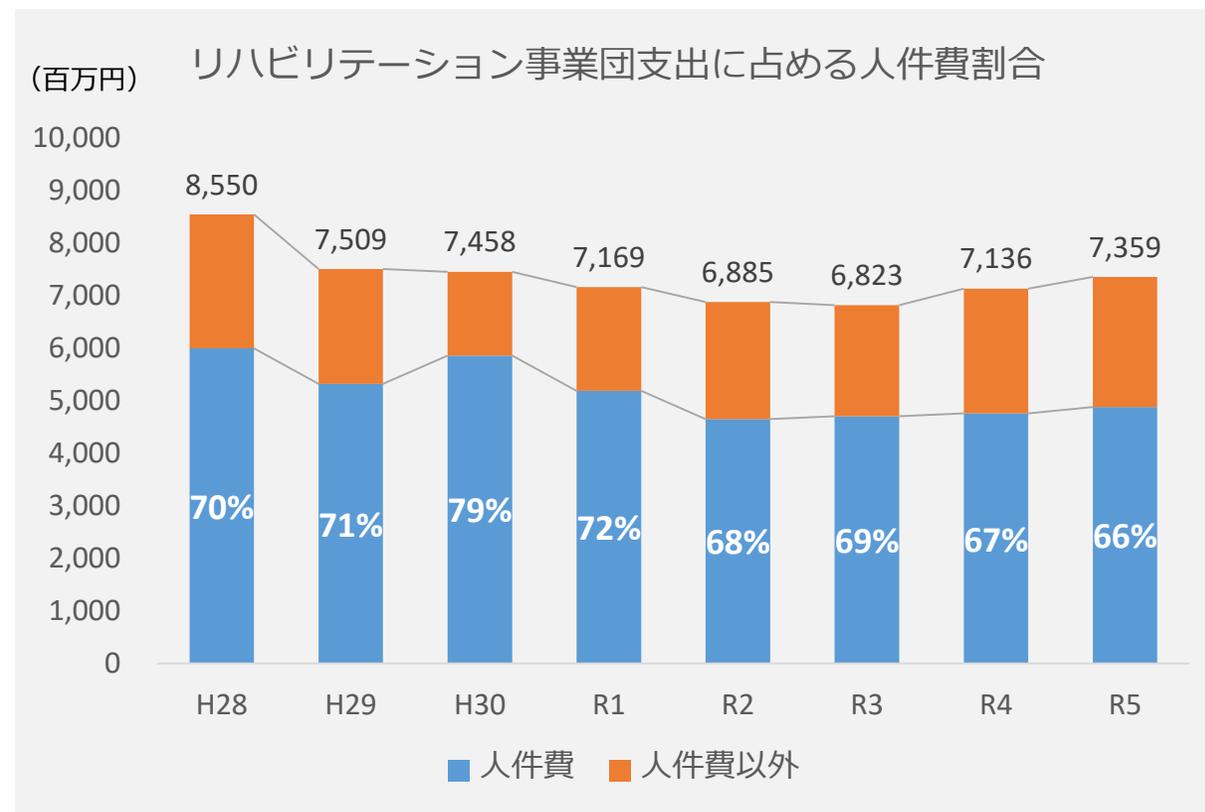
○ 福祉施設ではケアの難易度が高い利用者を受け入れている。

③ センターの運営状況

リハビリテーション事業団の収支



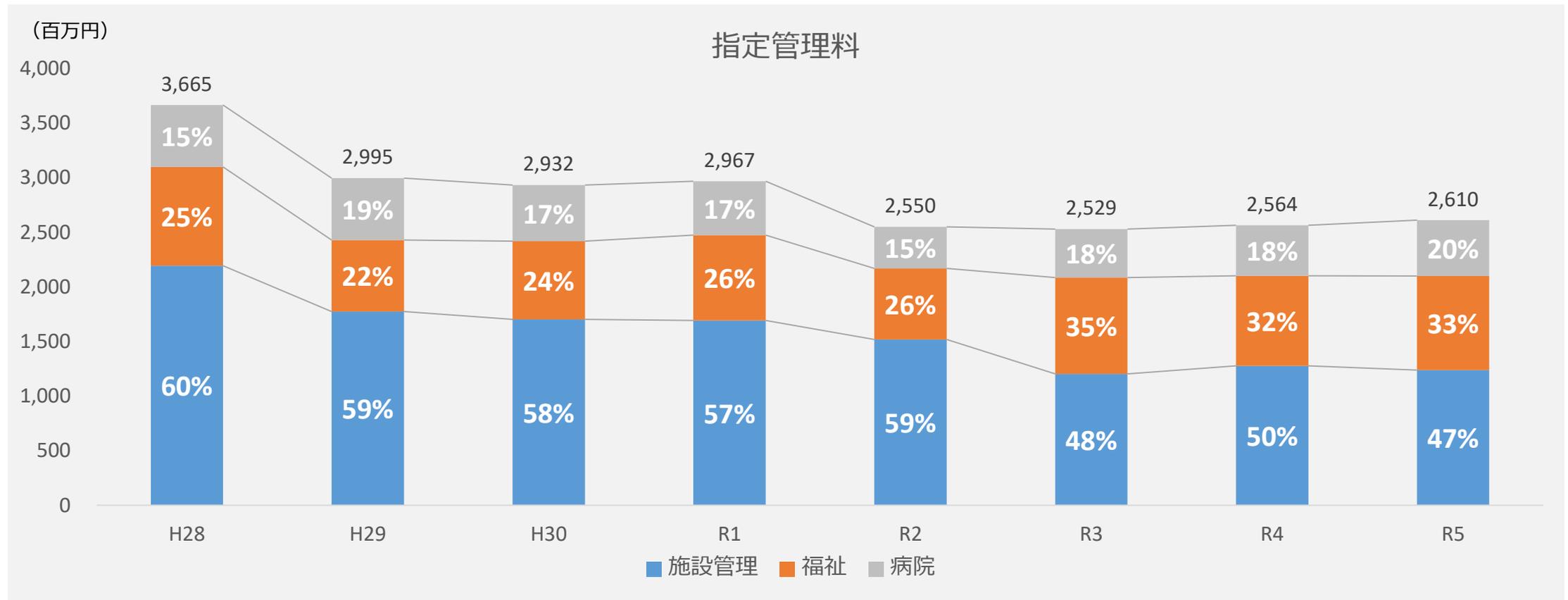
※指定管理以外の事業も含む



※指定管理以外の事業も含む

○ 人件費の占める割合が減少傾向にある。

指定管理料



○ 福祉にあてる指定管理料の割合が増えている。

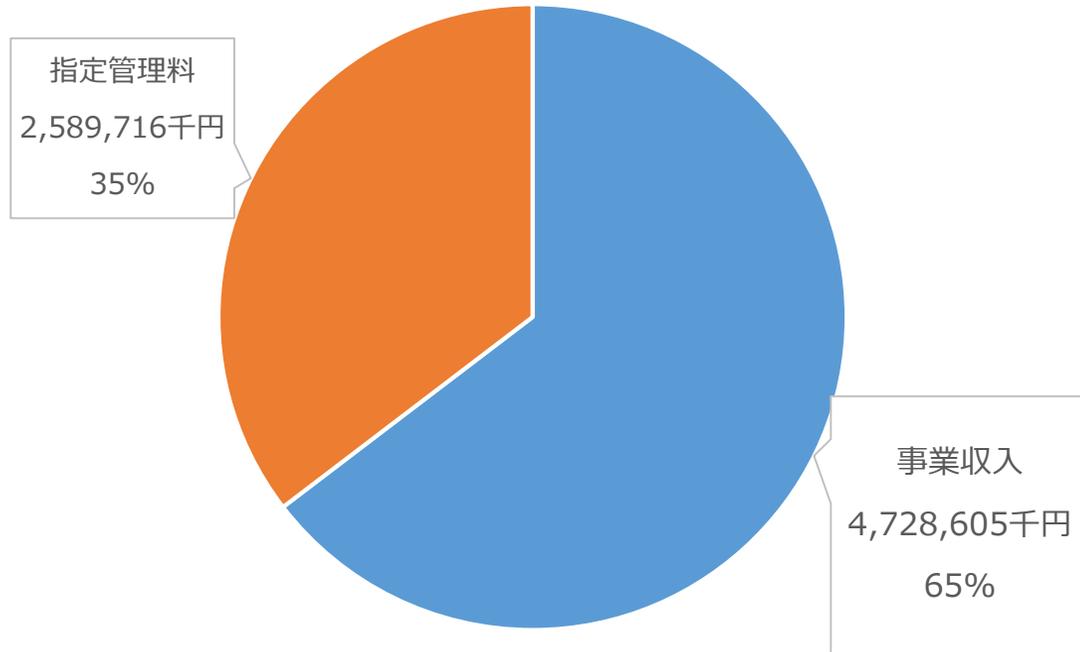
(参考) 指定管理料の算出の考え方

- 県が指定管理業務に相当する業務を、想定支出額と想定収入額を算出する。
- 想定支出額 > 想定収入額の場合
 - 県が指定管理者に指定管理料を支払う
- 想定支出額 < 想定収入額の場合
 - 指定管理者が県に納付金を納める
- 原則として、指定管理者に利益、損失等が発生しても、指定管理料（又は納付金）の増減による精算は行わない。

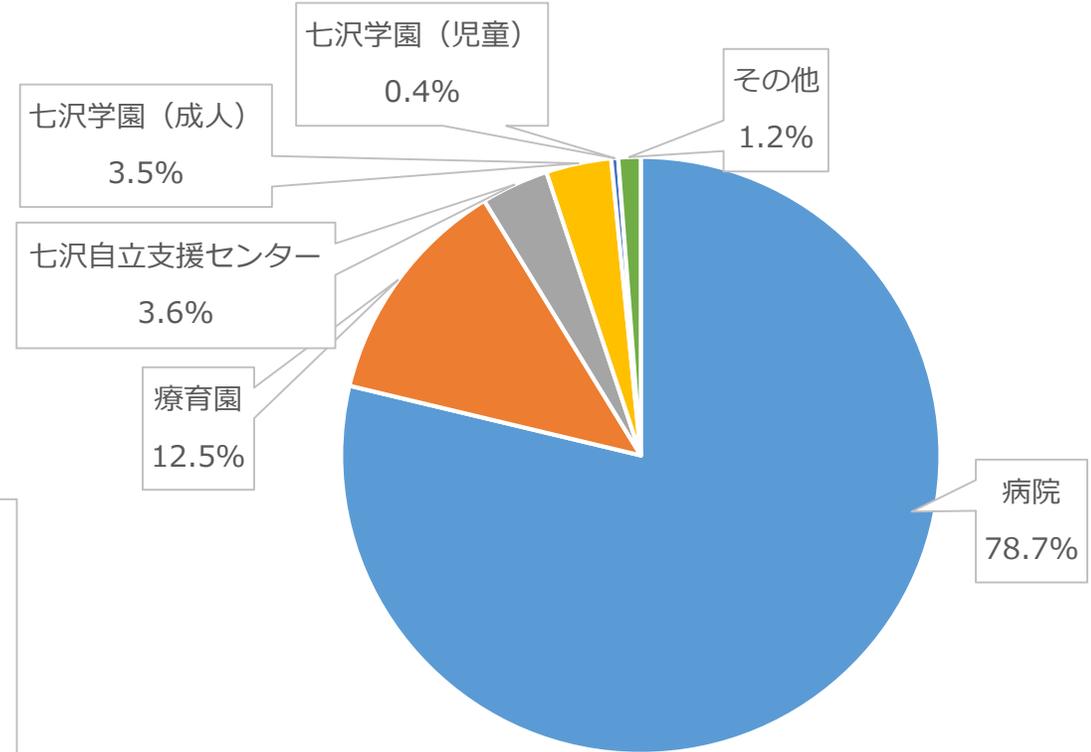
収入内訳

令和5年度実績

収入全体



うち事業収入



主な職種別平均給与

(円)

職種	神奈川リハビリテーション病院 (A) ※1	公立病院 (B) ※2	差額 (A) - (B)
医師	11,731,856	14,557,416	△2,825,560
薬剤師	6,391,752	5,954,927	436,825
看護師	5,111,451	5,732,481	△621,030
事務職員	5,187,167	5,040,490	146,677

※1 令和4年度実績より

※2 出典：令和5年実施 医療経済実態調査（医療機関等調査）報告より

(参考) 県内で障害者入所施設を併設する病院

No.	名 称	所在地	許 可 病 床 数					開設年月	備 考	
			一般	療養	精神	結核	感染症			計
1	社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院	横浜市	512	0	50	0	0	562	平19. 3	医療型障害児入所施設
2	神奈川県立こども医療センター	横浜市	390	0	40	0	0	430	平22. 4	医療型障害児入所施設
3	神奈川リハビリテーション病院	厚木市	324	0	0	0	0	324	昭48. 8	医療型障害児入所施設
4	独立行政法人国立病院機構神奈川病院	秦野市	300	0	0	30	0	330	平16. 4	医療型障害児入所施設
5	独立行政法人国立病院機構箱根病院	小田原市	199	0	0	0	0	199	昭15. 6	医療型障害児入所施設
6	横浜医療福祉センター港南	横浜市	170	0	0	0	0	170	平28. 5	医療型障害児入所施設
7	重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎	川崎市	120	0	0	0	0	120	平17. 3	医療型障害児入所施設
8	重症心身障害児（者）施設横浜療育医療センター	横浜市	113	0	0	0	0	113	昭63. 1	医療型障害児入所施設
9	鎌倉療育医療センター小さき花の園	鎌倉市	72	0	0	0	0	72	平10. 4	医療型障害児入所施設
10	相模原療育園	相模原市	60	0	0	0	0	60	平 1. 4	医療型障害児入所施設
11	ライフゆう	横須賀市	58	0	0	0	0	58	平26. 4	医療型障害児入所施設
12	太陽の門	小田原市	52	0	0	0	0	52	平14. 4	医療型障害児入所施設
13	ワゲン療育病院長竹	相模原市	40	0	0	0	0	40	平26. 3	医療型障害児入所施設

○ 令和5年4月1日現在の県内の病院数は337→診療科目でリハビリテーション科標榜230→医療型障害児入所施設13→公的・公立5

○ 神奈川県済生会横浜市東部病院は急性期病院、神奈川県立こども医療センターは小児総合医療・福祉施設

○ 国立病院機構神奈川病院は地域医療の中核病院で重症心身障害児（者）病棟の診察と療養機能

○ 国立病院機構箱根病院は神経筋・難病医療専門で医療型療養介護病棟の診察と療養機能

(3) 検討の論点

検討の論点（案）

- 県立施設としての役割の整理
(民間施設との役割分担、医療や福祉のニーズへの対応等)
- 当事者目線のサービス・提供体制の充実強化（地域生活への移行支援等）
- 医療と福祉の連携強化（施設内、地域との連携）
- 人材の確保・定着・育成
- 運営に好循環をもたらす収支構造



- ◇ その他の検討の論点はあるか
- ◇ 今後の検討を進めるうえでほかに必要なデータや調査はあるか

4 今後の進め方

次回の開催に向けて

(1) 次回の検討事項について

- 本日の検討結果をもとに、他県・他施設の状況調査、関係者への意見聴取を実施し、次回検討会で報告

(2) 次回以降の開催日程について

- 今年度は、第2回12月中旬、第3回2月中旬に開催予定

(3) 関係者の出席について

- 検討内容に応じた詳細な情報を把握するため、必要に応じて関係者（指定管理者含む）を出席させることとしたい。

(4) リハビリテーションセンターの現地視察について

- センターの現状把握のため、次回以降のいずれかにリハセンターで検討会を実施し、併せて現地視察を実施することとしたい。

今後の検討内容（案）

開催回数	開催予定時期	検討内容
第1回	令和6年10月	現状と課題の抽出、調査内容、分析項目
第2回	12月	他県、他施設との比較・分析
第3回	令和7年2月	ワンストップサービスについて
第4回	4月	医療と福祉の連携について
第5回	6月	病院のあり方について
第6回	8月	福祉施設のあり方について
第7回	10月	人員体制について
第8回	12月	運営体制について
第9回	令和8年2月	検討内容まとめ
第10回	3月	検討会報告書とりまとめ

説明は以上です。